

公共建築

港への眺望を確保するため、
緑地と一体化した低層の建物を建設

【長崎港松が枝国際観光船埠頭整備事業】

事業概要

2011年グッドデザイン賞受賞
土木学会デザイン賞2013優秀賞受賞

長崎市松が枝町

敷地規模約1.3ha、ターミナル(2,371㎡)、緑地、駐車場

環長崎港地域アーバンデザインシステムを活用してデザインを検討

プロデューサー：伊藤滋（早稲田大学特命教授）

ディレクター：上山良子（長岡造形大学学長）、林一馬（長崎総合科学大学教授）、篠原修（東京大学名誉教授）、石井幹子（株式会社石井幹子デザイン事務所代表取締役）

デザイナー：オリエンタルコンサルタンツ（太田啓介、秋田裕子、斉藤浩、蒲田直子、野口順平）、Inter Media一級建築士事務所（佐々木信明、永野和博、佐々木翔）、NK Sアーキテクツ（末廣香織、末廣宣子、山口修）

緑地と一体化したターミナル



※所属は、2011年4月現在

整備の背景

長崎港は、鎖国時代にも唯一の国際貿易港として栄え、現在でも多くの国際観光船が寄港する国内有数の港である。近年、世界の観光船は大型化の傾向にあり、長崎港への寄港も増加していることから、松が枝埠頭を整備し、国際ゲートウェイ機能の強化を図るとともに、市民が日常的に長崎港の眺望を楽しめる空間の創出を目指した。

コンセプト

ターミナルビルと緑地を一体化した「ハレ」と「ケ」の共存する緑の空間

整備後 全景



【整備のポイント】



港から見上げる山手の町並みと、その山手の町並みから見る港への眺望に配慮したマウンド形状の構造物とした。



建物前面に観光船入港を歓迎するイベント広場（野外劇場）を設け、ターミナル屋上の「緑のマウンド」でお出迎えができるようにした。



ターミナル内部には、入国手続きの待ち時間に長崎の魅力を体感できる歓迎ギャラリーを設けた。



長崎港へのオーシャンビューを楽しむことができる大開口やイベントに対応可能な天井高を確保したホールとした。



隣接する水辺の森公園との連続性を保ちながら、埠頭の入口となるエントランスプラザやマウンドへ続くウッドデッキなど、来訪者が一目で埠頭の構成や利用方法が理解でき、中へ誘いこむような、開放的で見通しのよいランドスケープとした。



長崎の町並みに用いられている天然石、ナンキンハゼの並木やベンチを整備し、市民の憩いの場となる広場とした。



ターミナル屋上の「緑のマウンド」は、日常的に市民に開放し、360度の長崎港の大景観を楽しむことができる、新しい視点場とした。



天窓やウッドデッキをライトアップし、幻想的な夜景景観を創出した。



シンボリックなデザインにするのではなく、まわりの景観や環境を最大限に活かして、市民にとってさりげなく周辺環境と調和した“場所”を創出した。

委員コメント 環長崎港地域アーバンデザイン専門家

- 長崎港に寄港するクルーズ客船の外国人乗客への第一印象を高めるとともに、市民や観光客に対しては日常的に長崎港と周辺の眺望景観が楽しめる散策や休息、そして各種イベントの場を提供するため、ダイナミックな緑地造形と一体化したターミナルビルとした。長崎港に新しい魅力を創出し、あわせて今後永く市民に親しまれる長崎の新しい顔となることを期待している。

（アーバンデザインの観点から工夫したこと）

- 長崎港の背後の斜面地には、グラバー園や大浦天主堂などの歴史的建造物が保存されており、そこから水面への眺望を阻害しないよう、建物の高さを7mと低く抑えた。
- 入国手続きを行うターミナルビルと、クルーズ客船をもてなし日常的に市民の憩いの場を提供する緑地を融合し、隣接する長崎水辺の森公園から連続する緩やかな緑の地形とすることで周囲の歴史的な地域資源や景観との調和を図った。
- ユニバーサルデザインに配慮し、エントランスからターミナル屋上の緑のマウンドへは緩やかなスロープを設け、ビル内部にはエレベーターを設置して、屋上から長崎港の景観を一望できるようにした。
- 緑地の木陰には多数のベンチを配し、ビル内には港を望むソファを設置して、日常の憩いの場を創出するとともに、緑のオープンスペースや野外劇場、ビルの待合ホールなどで多様なイベントを開催できるようにした。

事業主体コメント 長崎県長崎振興局長崎港湾漁港事務所

- 毎年、数多くの国際クルーズ客船に寄港いただいているが、狭隘なCIQ施設と観光情報の不足、セレモニーやイベントに対応できないなどが課題であった。
⇒規模や間取りなどは利用者会議や検討会などで調整し、クルーズ客船受入委員会やボランティアによってインフォメーション機能が充実した。また、東アジアにおける大型クルーズ客船の配船に伴い、CIQ施設規模の増強が必要になったため、CIQ施設に特化した第2ビルを完成させた。

（整備を終えて）

- ターミナル及び周辺緑地の整備後、一般市民がクルーズ客船を身近に感じる契機となった。クルーズ客船入港による乗客の観光や買い物等による経済波及効果は大きく、特に東アジアクルーズが急成長しているためますます施設の充実を図らなければならない。特にターミナルを起点とした回遊性の確保のため、案内板の設置やツアーバスの駐車場不足を解消していく必要がある。